

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300223		
法人名	株式会社 慈光		
事業所名	グループホームはな斜里 コスモスの家(1階)		
所在地	北海道斜里郡斜里町字豊倉50番地		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	令和2年7月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0175300359-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0175300359-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『家庭的な安心できる環境の中で、その人らしい尊厳のあるケアを約束します』という理念のもと、入居者様一人ひとりが、共同生活の中ではありますが、それぞれの思いを大切にし、お互いに助け合いながら、職員や他入居者様と家族のような関係を築いていけるように、またここが居場所だと思えるよう、安心して生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームはな斜里」は、平成31年4月に新法人による運営となったが、利用者や職員の不安・混乱を考慮して1年間は多くの変更をせずに運営を行い、従来の理念である「その人らしい尊厳のあるケア」を心がけ、言葉遣いや思いやりを大切に信頼関係が築ける介護を行っていた。令和2年の本年からは同法人の「グループホームたんぼぼ」と同じ「たんぼぼ憲章」を理念とし、心新たに「穏やかな笑顔で、真心こめて接します」「一人ひとりの願いを大切に、やさしい言葉で接します」「いつも思いやりをもって、暖かく丁寧に接します」「心を通わせ明るい施設を目指します」「みんなが安心できる施設を目指します」を理念として再スタートを図っている。昨年から外部アドバイザーを招聘し介護技術や働く心構え、心の持ち方等の研修に取り組んでいる。職員への助成制度も町の協力を得ながら確立し、受講費用の自己負担無く資格取得が出来るよう取り組んでいる。資格取得に臨み研修を受けたことで自分の考えの再確認や自信につながり意欲向上になる等、効果を上げている。利用者家族は状況を理解し、変革時期の取り組みを見守ってくれており、事業所内は和やかで優しい雰囲気となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモスの家(1階))	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスが始まる前につくられた理念ですが、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念となっている。職員間で理念を共有し、ミーティングの時に唱和し、また内部研修でも確認している。また、新人研修にて理念を説明しどのような介護が必要なのかを伝えている。	平成31年に運営法人の変更がなされたが、理念は従来の理念で運営していた。一年後の令和2年4月から現法人の「たんぼぼ憲章」を理念とし掲示している。研修では代表から講和があり、またアドバイザーの指導を得て実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治会に所属し、自治会の防災訓練をホームで行ったり、また自治会の防災訓練にも参加している。避難訓練の時は自治会館に避難して、一緒に昼食を食べる等交流を図っている。	自治会に加入しており相互に防災訓練を行っている。各訓練終了時に事業所主催ではジギスカンを、自治会主催では婦人部による炊き出しの食事会があり、相互に参加し交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練に参加し、近隣住民と交流し事業所で行っている活動等を知ってもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況・ヒヤリハットの報告・行事予定や行事の様子などを報告するだけでなく、意見交換を行うことでサービスの向上に繋がっている。	運営推進会議は利用者家族、地域自治会役員、知見者、行政等の出席を得て開催し状況報告、活動報告等を行い運営に活かしている。出席者には特に災害時近隣住民協力が複数あり、事業所の向上に努めている。	法人変更等により多忙であった事もあり開催が少ない状況となっている。これよりは概ね2か月ごとの定期的な開催を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催のケア会議に出席したり、入居申し込みの状況を伝え、どの方が困っているのかを把握するために意見交換を行っている。また施設側からどのように対応していいかわからないケース等で助言を求めたりと関係を築いている。	行政担当者とは事故報告等で管理者が訪問し助言や指導、情報を得て協力関係を築いている。新法人代表者は介護事業所協議会の代表を務めており行政と連絡を密にし協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束等「指定地域密着型サービス指定基準及び指定密着型介護サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をマニュアルや内部研修などを通じて理解し、介護の場面に取り組んでいる。夜間は防犯の為、ホームの玄関1カ所のみ施錠している。また転倒のしやすい人には赤外線センサーを使用し行動の把握に努め、センサー自体が行動制限にならないように気を付けている。	身体拘束廃止に向けては廃止マニュアルで身体拘束の弊害や具体的禁止行為、不適切な言動について取り組み、正しく理解して適切な介護が出来るよう努めている。指針、検討委員会設置については現在取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員は内部研修等で高齢者虐待防止法等についても学ぶ機会を持ち、ミーティングなどで職員同士の情報交換を行うことで、職員全体で虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモスの家(1階))	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員は権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、職員がいつでも閲覧できるところに資料を置くことで共通理解が持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受ける場面から本人及び家族等の思いを聞き、不安や疑問等を確認している。また施設利用について十分な説明を行い、パンフレット等を使用し理解や納得を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの相談については、対応した職員が記録にすることで他の職員も共有することができ、個々にあわせた時間や場所に配慮しながら機会を設けている。また家族等に関しては直接職員に言いにくいことなどの意見を吸い上げるため意見箱を設置するなど行い、意見・要望を社内外へ表せる機会を設けている。	利用者や家族の意見や要望は日常の会話や面会時の会話の中で把握するよう努めている。家族との連絡や情報を密にするためにラインを設け希望する家族に開き、連絡事項や様子を報告している。紙媒体での通信は今後充実させていく予定としている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティング等で運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、職員の意見をできる限り反映させるように努めている。代表者へは必ずミーティング内容を報告している。また、個人面談を行い個々の意見も直接聞けるよう努めている。	職員の意見や提案は業務の中で把握し反映させるよう努めている。最近では定期的な職員会議が開催できず目標となっていたが、新法人のもと、会議の充実を目指している。また、外部からのアドバイザーの指導を受けると共に随時個人面談を行い職員の意向の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を含む全ての職員の努力や実績、勤務状況を把握し、負担増にならないシフトの構成・研修等への支援等、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、全ての職員の介護技術を把握し、内部研修を通し学ぶ機会を作っている。また外部研修を受けられるように勤務を配慮したり、働きながら資質向上につなげるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、町内の介護事業所の集まりである斜里町高齢者介護事業所連絡協議会に参加し情報の交換を行っている。その中で研修会等の機会を作ったり、職員不足等の問題解決に取り組みながらサービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモスの家(1階))	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に必ず本人にお会いし、少しでも利用する時の不安を減らすように努めている。可能であれば自宅に行き、環境についても確認し、利用した際の不安を解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には本人だけでなく家族にも話を聞き、何でも話せる関係を作れるように努めている。困りごとや不安を確認し、丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困りごとを確認している中で、他のサービスのほうが良い支援に繋がると思われる場合は、家族や本人だけでなく、担当のケアマネージャーに連絡し対応を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態を見極め、出来ることに注目し一緒に協力して家事をする等の役割をもって生活することで、自分が支えられているだけでなく、家族の一員としていられることを感じられる支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入所しても家族の関係が切れないように、活動内容や入居者の様子を伝え、家族が無理のないような程度で協力を求めている。その中で施設・家族が協力し合い、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた美容室、図書館、温泉、スーパーなど継続して利用したり、面会に人や時間を制限していないため今まで友達付き合いしていた日とが気軽に来れる空間となっている。	利用者の馴染みの美容室や場所への訪問希望がある時は、事業所の対応で取り組んでいる。知人の訪問時には写真を撮る等の雰囲気作りで関係が途切れないように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がトラブルになりそうな場面では職員が間に入り対応を行うことで、孤立しないように努めている。また共同での作業やレクリエーションを通し、お互いの関係づくりに努めている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモスの家(1階))	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方のところへ訪問したり、また退居した人が訪問に来たりと関係を途切れていない。また家族より、どのような生活をしてきたか、どのようなケアをすれば安心するかを聞かれた場合は、利用中の様子を伝える等、次の場所でも円滑に生活が出来るように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成の場面や最近の様子から意向を確認し、本人の意向が計画に反映されるように工夫をしている。また本人から意向が確認できない場合は本人の行動から望んでいると思われる内容を把握していく。	利用者の思いや暮らし方の意向は生活歴や日常の様子、会話、家族の情報で把握し実現できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、利用中に本人及び家族から生活歴や生活環境を確認し、馴染みの生活が出来るように支援していく。また担当のケアマネージャーやサービス事業者から聞き取りを行いこれまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の書き方を工夫し、健康状態だけでなく本人の心身の状態が把握できるように行動や発言を細かく載せることでより詳しい把握に努めている。特に状態の変化した場面では細かく記録を書くように徹底している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、ミーティング時や心身の状況が変化した際には職員間で情報を共有し、本人や家族と話し合いを行いながら、現状に合わせた介護計画の作成に努めている	介護計画は基本的には6か月ごとに利用者、家族の要望を反映しながら、毎月のカンファレンス、モニタリングを行い現状に即した計画作成が出来るように取り組んでいる。	介護計画作成につながる介護記録の在り方の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけでなく、職員間で気付いたことを書き込める連絡ノートを活用することで、より細かい部分を全体で共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々会話や行動から本人や家族の状況を把握し、その人のためにとできることを考え、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でどのような資源があるのかを把握し、施設サービスに限らず、地域資源を活用していくことで、豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していた医師は変えずに対応している。家族での送迎が難しい場合は近くの医師に受診できるように対応している場合もあるが、本人・家族の意向を重視している。必要に応じて訪問診療を検討していく。	定期受診はかかりつけ医へ利用者家族の対応で支援している。その際日常の様子を記載した事業所看護師からの添書を持参してもらうか、状況に応じ同行する事もある。現在は訪問診療も可能であり適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモスの家(1階))	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が、入居者の状況を介護職員から聞き取りや記録を見ることで把握している。夜間でも電話にて対応し、必要に応じて入居者の状態を確認し、処置や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は情報提供書を作成し、入院後も入居者に対して適切な支援が継続していく。また退院後スムーズに支援に入れるように病院関係者と情報交換や相談に努めている。必要に応じてカンファレンスに参加していく。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居相談の時に本人、家族等の意向や考え方を確認している。看取りケアについては医療機関との連携をとりながら事業所としてできる範囲で実施している。	重度化した場合や終末期における在り方については、利用契約時に重要事項説明書の追加文書で説明し理解を得ている。その際「利用時における終末期要望調査」「事前指定書」で意向を確認し希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや内部研修等で定期的に急変や事故発生時に備えての訓練を行っている。また緊急時のフローチャートを掲示することで実際の場面で混乱が少なくなるように努めている。対応については管理者もしくは看護師に電話連絡する他、緊急時は救急車を呼ぶことになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会と協力し定期的な避難訓練を行っており、火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を訓練している。また訓練時には歩行困難な方の2階からの避難として階段避難者を使用し訓練を行っている。	避難訓練は年2回地域自治会の協力を得ながら消防署指導のもと行っている。訓練後は食事会を開き交流している。地域住民には災害時の協力や訓練・運営推進会議にも出席を得ている。災害時の発電装置や備蓄は法人で用意が出来ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念通り尊厳のある介護を意識しているが、言葉遣いなど気になることもみられる。その場で指導することやミーティングで言葉遣いについて話をしたりと、今後もなれ合いの関係にならないようにケアを見つめる場面を作っていく。	一人ひとりの人格や尊厳、プライバシーについては、損ねない言動を心がけている。特に言葉遣いについては慣れすぎること無く礼儀を持った対応が出来よう指導し、介護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の声かけや行動などから本人の思いを確認している。しかし、時間的・人力的余裕がなく、職員本意になりがち場面もあるので今後も気を付けて行く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設ではある程度の時間の流れはあるが、基本的には起床時間・食事時間・何をするかなど本人のペースを大事にして。全ての思いが叶えられてはいないが、その都度判断しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪については決まった美容院ではなく、入居者それぞれ馴染みの美容室を利用したり、歩行困難の方については出張理容してもらっている。着る服は基本的には入居者に選んで頂いているが、選べない人には季節に合った服を選ぶようにしている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモスの家(1階))	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嫌いな物や食べられない物を把握し、代食提供したり、食べたい物をメニューに取り入れられている。また職員は入居者と一緒に食事をしているため、より近い視点で把握できるように努めている。また入居者の能力に応じて調理、盛り付けや食器拭き等を一緒に行っている。	食事は系列のグループホームの献立も参考にして利用者の好みを取り入れながら専門調理員により調理されている。行事には特別食で楽しい食事になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事及び水分量等記入するシートを設け、一日を通じた摂取量の把握を行い、少ない時は摂取できるよう小まめに提供したり、小さなおにぎりに変更したりしたり、ゼリー等の食べやすい物を提供したりしている。また個々の嗜好を考慮し、一人ひとりの習慣に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていきたいが、実際には就寝前だけになっているのが現状。口腔ケアの内容としては自力で出来る方、介助が必要な方に合わせ、本人の能力を考慮しながら口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンを把握するためにシートを活用し、時間・便の性状・下剤の使用などを記入している。また排泄の自立及び気持ちよく排泄できるよう、失禁の多い時間帯にトイレに誘う等の支援を行っている。本人の能力に応じてパットや紙パンツを使用している。	利用者一人ひとりの排泄記録を詳しく作成し、それぞれの状態やパターンを把握し、トイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便のパターンを理解し、水分量や運動の機会等行っている。また、必要に応じ医師に相談するなど、便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を週に二回としているが、必要に応じ足浴、清拭などもできるようにしている。しかし、回数、曜日や時間帯が入居者の希望通りに出来ていないことがあり、今後改善していきたい課題の一つとなっている。現状では人数の都合上、毎日入浴したり、夜に入浴したりは出来ないが本人の希望が叶えられるように努めている。	入浴は週2回を基本に、利用者のその日の状態や状況を考慮しながら取り組んでいる。浴槽は大きく入浴の際には介助がし易く安全に配慮し木製で手すり台を作成設置する工夫をし、快適な入浴が出来るように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれ使い慣れた寝具で、それぞれの生活習慣に応じた対応が取れるように工夫している。また定期的に布団やシーツを洗濯し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者それぞれの病気や服薬内容を把握するために、その都度服薬管理台帳へ記入している。また薬の内容は全て個人ファイルに入れいつでも確認できるようにしている。ただ課題に挙げている職員もあるため、ミーティング等での周知をしていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力や生活歴を考慮して、家事に参加したり、一緒に買い物へ行ったり、食べたいおやつを共同作業で作ったりと役割を持った生活を意識している。ただ入居者が年齢と共に少しづつ出来なくなっていることが多いため、入居その都度状態の把握していくことが課題となっている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモスの家(1階))	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に入居者が希望する散歩や買い物等に出掛けている。春は花見、夏には家族を誘い焼肉をしたり、地域のイベントに参加している。また入居者からの話を聞き好きなどころに行けるように努めている。	外出は日常的に付近への散歩や外気浴を行っている。前庭には花壇があり歩道の植栽の残りを分けて植えてもらっており手入れを都度行っている。買い物等での外出やお祭りへ出かけ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの能力に応じた金銭管理を行っており、なるべくトラブルが起きないように少額にしながら対応している。お金を持つことで買い物以外に、安心していられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	共有スペースに公衆電話を設置し、自由に利用できるようになってきている。また、耳の不自由な入居者には代替で電話をかけたたり、ダイヤルだけ手伝い支援を行っている。また、手紙についても同様に各入居者の希望に添える形にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り季節に応じた装飾を行ったりし、心地よく過ごせるよう配慮しているが、認知症の症状により自分の物だと持って行く方もいるため、工夫しながら空間づくりをしている。	大きなリビングは日差しが明るく、廊下は回廊式になっており、リハビリに利用されている。室内には季節の飾りや行事の写真が貼られ、温湿度等の環境管理が適切に行われ、快適に生活できるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席だけでなくソファや一人掛け椅子を置き、好きな時に好きな場所で過ごせるように空間作りをしている。また、ソファに一緒に座り会話したり、時には昼寝をしたり、入居者それぞれのペースや体調で過ごせるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外、持ち込み自由のため、なるべく本人が今まで使用していたものをを持ち込んでもらい、家族の写真や飾り、お気に入りの小物を飾ったり、本人が居心地良く過ごせるよう努めている。	居室にはカウンター机やクローゼットが設置され、利用者の使い慣れた筆筒等が配置されている。家族の写真や絵、人形等好みの物を飾り、自宅同様生活できるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に入居者の認知力や歩行力の変化を把握し場所を示すポスターであったり、福祉用具等の利用で、安全で自立した生活が過ごせるよう環境づくりを行っている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300223		
法人名	株式会社 慈光		
事業所名	グループホームはな斜里 ハマナスの家(2階)		
所在地	北海道斜里郡斜里町字豊倉50番地		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	令和2年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『家庭的な安心できる環境の中で、その人らしい尊厳のあるケアを約束します』という理念のもと、入居者様一人ひとりが、共同生活の中ではありますが、それぞれの思いを大切にし、お互いに助け合いながら、職員や他入居者様と家族のような関係を築いていけるように、またここが居場所だと思えるよう、安心して生活できるように努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0175300359-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=0175300359-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年6月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ハマナスの家(2階))	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスが始まる前につくられた理念ですが、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念となっている。職員間で理念を共有し、ミーティングの時に唱和し、また内部研修でも確認している。また、新人研修にて理念を説明しどのような介護が必要なのかを伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治会に所属し、自治会の防災訓練をホームで行ったり、また自治会の防災訓練にも参加している。避難訓練の時は自治会館に避難して、一緒に昼食を食べる等交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練に参加し、近隣住民と交流し事業所で行っている活動等を知ってもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況・ヒヤリハットの報告・行事予定や行事の様子などを報告するだけでなく、意見交換を行うことでサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催のケア会議に出席したり、入居申し込みの状況を伝え、どの方が困っているのかを把握するために意見交換を行っている。また施設側からどのように対応していいかわからないケース等で助言を求めたりと関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束等「指定地域密着型サービス指定基準及び指定密着型介護サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をマニュアルや内部研修などを通じて理解し、介護の場面に取り組んでいる。夜間は防犯の為、ホームの玄関1カ所のみ施錠している。また転倒のしやすい人には赤外線センサーを使用し行動の把握に努め、センサー自体が行動制限にならないように気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員は内部研修等で高齢者虐待防止法等についても学ぶ機会を持ち、ミーティングなどで職員同士の情報交換を行うことで、職員全体で虐待が見逃ごされることがないように防止に努めている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ハマナスの家(2階))	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員は権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、職員がいつでも閲覧できるところに資料を置くことで共通理解が持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談を受ける場面から本人及び家族等の思いを聞き、不安や疑問等を確認している。また施設利用について十分な説明を行い、パンフレット等を使用し理解や納得を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの相談については、対応した職員が記録にすることで他の職員も共有することができ、個々に合わせた時間や場所に配慮しながら機会を設けている。また家族等に関しては直接職員に言いにくいことなどの意見を吸い上げるため意見箱を設置するなど行い、意見・要望を社内外へ表せる機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティング等で運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、職員の意見をできる限り反映させるように努めている。代表者へは必ずミーティング内容を報告している。また、個人面談を行い個々の意見も直接聞けるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を含む全ての職員の努力や実績、勤務状況を把握し、負担増にならないシフトの構成・研修等への支援等、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、全ての職員の介護技術を把握し、内部研修を通し学ぶ機会を作っている。また外部研修を受けられるように勤務を配慮したり、働きながら資質向上につながるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、町内の介護事業所の集まりである斜里町高齢者介護事業所連絡協議会に参加し情報の交換を行っている。その中で研修会等の機会を作ったり、職員不足等の問題解決に取り組みながらサービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ハマナスの家(2階))	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に必ず本人にお会いし、少しでも利用する時の不安を減らすように努めている。可能であれば自宅に行き、環境についても確認し、利用した際の不安を解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には本人だけでなく家族にも話を聞き、何でも話せる関係を作れるように努めている。困りごとや不安を確認し、丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困りごとを確認している中で、他のサービスのほうが良い支援に繋がると思われる場合は、家族や本人だけでなく、担当のケアマネージャーに連絡し対応を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態を見極め、出来ることに注目し一緒に協力して家事をする等の役割をもって生活することで、自分が支えられているだけでなく、家族の一員として居ることを感じられる支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入所しても家族の関係が切れないように、活動内容や入居者の様子を伝え、家族が無理のないような程度で協力を求めている。その中で施設・家族が協力し合い、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた美容室、図書館、温泉、スーパーなど継続して利用したり、面会に人や時間を制限していないため今まで友達付き合いしていた日とが気軽に来れる空間となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がトラブルになりそうな場面では職員が間に入り対応を行うことで、孤立しないように努めている。また共同での作業やレクリエーションを通し、お互いの関係づくりに努めている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ハマナスの家(2階))	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方のところへ訪問したり、また退居した人が訪問に来たりと関係を途切れていない。また家族より、どのような生活をしてきたか、どのようなケアをすれば安心するかを聞かれた場合は、利用中の様子を伝える等、次の場所でも円滑に生活が出来るように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成の場面や最近の様子から意向を確認し、本人の意向が計画に反映されるように工夫をしている。また本人から意向が確認できない場合は本人の行動から望んでいると思われる内容を把握していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、利用中に本人及び家族から生活歴や生活環境を確認し、馴染みの生活が出来るように支援していく。また担当のケアマネージャーやサービス事業者から聞き取りを行いこれまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の書き方を工夫し、健康状態だけでなく本人の心身の状態が把握できるように行動や発言を細かく載せることでより詳しい把握に努めている。特に状態の変化した場面では細かく記録を書くように徹底している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、ミーティング時や心身の状況が変化した際には職員間で情報を共有し、本人や家族と話し合いを行いながら、現状に合わせた介護計画の作成に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけでなく、職員間で気付いたことを書き込める連絡ノートを活用することで、より細かい部分を全体で共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々会話や行動から本人や家族の状況を把握し、その人のためにとできることを考え、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でどのような資源があるのかを把握し、施設サービスに限らず、地域資源を活用していくことで、豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していた医師は変えずに対応している。家族での送迎が難しい場合は近くの医師に受診できるように対応している場合もあるが、本人・家族の意向を重視している。必要に応じて訪問診療を検討していく。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ハマナスの家(2階))	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が、入居者の状況を介護職員から聞き取りや記録を見ることで把握している。夜間でも電話にて対応し、必要に応じて入居者の状態を確認し、処置や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は情報提供書を作成し、入院後も入居者に対して適切な支援が継続していく。また退院後スムーズに支援に入れるように病院関係者と情報交換や相談に努めている。必要に応じてカンファレンスに参加していく。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居相談の時に本人、家族等の意向や考え方を確認している。看取りケアについては医療機関との連携をとりながら事業所としてできる範囲で実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや内部研修等で定期的に急変や事故発生時に備えての訓練を行っている。また緊急時のフローチャートを掲示することで実際の場面で混乱が少なくなるように努めている。対応については管理者もしくは看護師に電話連絡する他、緊急時は救急車を呼ぶことになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会と協力し定期的な避難訓練を行っており、火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を訓練している。また訓練時には歩行困難な方の2階からの避難として階段避難者を使用し訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念通り尊厳のある介護を意識しているが、言葉遣いなど気になるところもみられる。その場で指導することやミーティングで言葉遣いについて話をしたりと、今後もなれ合いの関係にならないようにケアを見つめる場面を作っていく。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の声かけや行動などから本人の思いを確認している。しかし、時間的・人力的余裕がなく、職員本意になりがちな場面もあるので今後も気を付けて行く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設ではある程度の時間の流れはあるが、基本的には起床時間・食事時間・何をするかなど本人のペースを大事にして。全ての思いが叶えられてはいないが、その都度判断しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪については決まった美容院ではなく、入居者それぞれ馴染みの美容室を利用したり、歩行困難の方については出張理容してもらっている。着る服は基本的には入居者に選んで頂いているが、選べない人には季節に合った服を選ぶようにしている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ハマナスの家(2階))	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嫌いな物や食べられない物を把握し、代食提供したり、食べたい物をメニューに取り入れたいしている。また職員は入居者と一緒に食事をしているため、より近い視点で把握できるように努めている。また入居者の能力に応じて調理、盛り付けや食器拭き等を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事及び水分量等記入するシートを設け、一日を通じた摂取量の把握を行い、少ない時は摂取できるよう小まめに提供したり、小さなおにぎりに変更したりしたり、ゼリー等の食べやすい物を提供したりしている。また個々の嗜好を考慮し、一人ひとりの習慣に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていきたいが、実際には就寝前だけになっているのが現状。口腔ケアの内容としては自力で出来る方、介助が必要な方に合わせ、本人の能力を考慮しながら口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンを把握するためにシートを活用し、時間・便の性状・下剤の使用などを記入している。また排泄の自立及び気持ちよく排泄できるよう、失禁の多い時間帯にトイレに誘う等の支援を行っている。本人の能力に応じてパットや紙パンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便のパターンを理解し、水分量や運動の機会等行っている。また、必要に応じ医師に相談するなど、便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を週に二回としているが、必要に応じ足浴、清拭などもできるようにしている。しかし、回数、曜日や時間帯が入居者の希望通りに出来ていないことがあり、今後改善していきたい課題の一つとなっている。現状では人数の都合上、毎日入浴したり、夜に入浴したりは出来ないが本人の希望が叶えられるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれ使い慣れた寝具で、それぞれの生活習慣に応じた対応が取れるように工夫している。また定期的に布団やシーツを洗濯し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者それぞれの病気や服薬内容を把握するために、その都度服薬管理台帳へ記入している。また薬の内容は全て個人ファイルに入れいつでも確認できるようにしている。ただ課題に挙げている職員もあるため、ミーティング等での周知をしていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力や生活歴を考慮して、家事に参加したり、一緒に買い物へ行ったり、食べたいおやつを共同作業で作ったりと役割を持った生活を意識している。ただ入居者が年齢と共に少しづつ出来なくなっていることが多いため、入居その都度状態の把握していくことが課題となっている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ハマナスの家(2階))	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に入居者が希望する散歩や買い物等に出掛けている。春は花見、夏には家族を誘い焼肉をしたり、地域のイベントに参加している。また入居者からの話を聞き好きなどところに行けるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの能力に応じた金銭管理を行っており、なるべくトラブルが起きないように少額にしながら対応している。お金を持つことで買い物以外に、安心していられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	共有スペースに公衆電話を設置し、自由に利用できるようになってきている。また、耳の不自由な入居者には代替で電話をかけたたり、ダイヤルだけ手伝い支援を行っている。また、手紙についても同様に各入居者の希望に添える形にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り季節に応じた装飾を行ったりし、心地よく過ごせるよう配慮しているが、認知症の症状により自分の物だと持って行く方もいるため、工夫しながら空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席だけでなくソファや一人掛け椅子を置き、好きな時に好きな場所で過ごせるように空間作りをしている。また、ソファに一緒に座り会話したり、時には昼寝をしたり、入居者それぞれのペースや体調で過ごせるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外、持ち込み自由のため、なるべく本人が今まで使用していたものをもち込んでもらい、家族の写真を飾ったり、お気に入りの小物を飾ったり、本人が居心地良く過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に入居者の認知力や歩行力の変化を把握し場所を示すポスターであったり、福祉用具等の利用で、安全で自立した生活が過ごせるよう環境づくりを行っている。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム はな斜里

作成日：令和 2年 7月 27日

市町村受理日：令和 2年 7月 27日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画作成につながる介護記録のあり方の工夫	ケアプランに基づき、記録が出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録を記入するときに、介護記録が閲覧しやすいようにする。</li> <li>・介護記録とケアプランが連動記録の方法を職員研修にて学ぶ。</li> <li>・介護記録とケアプランが連動できるような支援計画を作成するように工夫する。</li> </ul>	6ヶ月
2	4	定期的な運営推進会議の開催	年6回の運営推進会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回の運営推進会議を開催する。</li> <li>・会議の内容についても再考する。</li> </ul>	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。